

関西眼疾患研究会 平成31年度事業報告書

平成31年1月1日より令和元年12月31日まで

本年の事業については、平成31年度の事業計画に基づいて実施し、本会の目的達成に努力した。

(1) 会員へ向けての定期講演会

○ 関西眼疾患研究会 特別講演

日時：平成30年1月24日（水）

講師：松本 長太（近畿大学医学部眼科学教室 教授）

タイトル：レギュラトリーサイエンスの視点から見た再生医療

日時：平成30年4月4日（水）

講師：田中 求（京都大学高等研究院 特任教授）

タイトル：臨床へとつながる医学物理学の開拓

日時：平成30年4月17日（水）

講師：Prashant Garg (LV Prasad Eye Institute)

タイトル：Rare infections of cornea - what have we learnt from Microsporidia, Pythium and Acanthamoeba

日時：平成30年6月13日（水）

講師：植村 明嘉（名古屋市立大学大学院医学研究科）

タイトル：統合的アプローチによる糖尿病網膜症研究の新展開

日時：平成30年6月20日（水）

講師：原 英二（大阪大学 微生物病研究所）

タイトル：がんと老化の制御における細胞老化の仕組みと役割

日時：平成30年7月4日（水）

講師：石橋 達朗（九州大学 副学長）

タイトル：加齢黄斑変性と眼病理

日時：平成30年10月17日

講師：永楽 元次（京都大学大学院 工学研究科）

タイトル：多細胞の自己組織化を利用した幹細胞からの機能的立体組織構築

日時：平成 30 年 10 月 18 日（水）

講師：Dr.Charles M. Heard（School of Pharmacy & Pharmaceutical Sciences CITER,
Research Committee Chair Cardiff University）

タイトル：Enhancing drug delivery to the cornea.

日時：平成 30 年 11 月 7 日（水）

講師：Dr.Igor Butovich（UT Southwestern Medical Center）

テーマ：Detailed lipid analysis of meibum

日時：平成 30 年 12 月 19 日（水）

講師：黒田 純也（京都府立医科大学 血液内科）

タイトル：悪性リンパ腫の診断と治療戦略 ～京都府立医科大学グループの挑戦を含めて～

○ 国内・海外研究者との研究打ち合わせ、意見交換会

日時：平成 30 年 1 月 24 日（水）

視野検査の進歩についてお話いただいた松本 長太先生（近畿大学医学部眼科学教室 教授）らと情報交換会においてさまざまな視野検査、中でも松本先生が開発にご尽力された『ヘッドマウント型視野計 imo』について開発の経緯などを情報共有いただいた。ヘッドマウント型のため持ち運びが簡単で、また暗室が不要なことから外来の待ち時間に使用できる可能性について議論し、また両眼視の状態で視野検査ができることから、これまでの視野検査とは全く異なり、新たな知見が得られる可能性についてなど意見を交換した。結果、京都府立医科大学附属病院での imo のデモの手配をしていただける運びとなった。また近畿大学眼科教授であられ外来のマネジメントをされる立場から、近畿大学、京都府立医科大学の外来の違いについて意見を交換し、互いの良い点、修正すべき点を学ぶ非常に貴重な機会となった。

日時：平成 30 年 10 月 18 日（水）

Dr.Charles M. Heard（School of Pharmacy & Pharmaceutical Sciences CITER, Research Committee Chair Cardiff University）らと、より深まった議論を行うとともに共同研究の可能性について意見を交換した。とりわけ Cardiff University がある UK の研究環境として rabbit を用いた実験が難しくなっている現状があるようである。そのため、博士より rabbit を用いた動物実験を可能であれば共同研究として京都府立医科大学で行えないかとの要請があった。京都府立医科大学眼科学教室では、整備された環境のもと、rabbit を用いた動物実験を適切に行っており、いつでも十分に協力する準備ができていることを伝え、今後協力していくことを確認した。Cardiff University と京都府立医科大学はこれまでも友好的な関係を結んでおり、それを象徴するような和やかな特別講演ならびに懇親会であった。引き続き、関係を発展させていくことを確認しあった。

日時：平成 30 年 11 月 7 日（水）

マイボーム腺に分泌する脂質の詳細な解析を行っている Dr.Igor Butovich（UT Southwestern Medical Center）らと、研究打ち合わせと情報交換を行った。マウスと人間のマイボーム腺の脂質の成分は似ていること、meibogenesis という新しい概念に基づき構築されたMGDなどについて病態理解や新しい治療などの応用が期待されること等をお話しいただいた。また、京都市立病院の鈴木智先生との共同研究についても情報提供をいただき、今後も継続的に関係を維持していくことを確認した。

日時：平成 30 年 12 月 19 日（水）

黒田 純也（京都府立医科大学 血液内科）先生の「悪性リンパ腫の診断と治療戦略」についての講演後、日頃直接お話する機会がなかなかない眼科と血液内科の医師でお互いに悪性リンパ腫の日常診療に対して感じていることなどについての意見交換を行った。本学において眼部の悪性リンパ腫の症例が非常に多いことから、連携してデータ解析が行えれば良いのではないかという意見も出るなど、今後につながるとても有意義な時間となった。今後も血液内科と連携して個々の患者さんに適切な診療を提供していく旨確認をしあった。

（2）オープンフォーラム（共催：参天製薬株式会社・京都眼科医会）

1. 第 53 回京都眼科フォーラム

テーマ：明日から役立つ眼科の最新情報

日 時：平成 30 年 1 月 20 日（土）

『より上質な斜視手術をめざして』

宮田 学（京都大学大学院医学研究科眼科学 助教）

『～ステロイド点眼・アシクロビル眼軟膏投与の Pro and Con～』

佐々木 香る（JCHO 星ヶ丘医療センター眼科部長）

『ロービジョンケア up-to-date』

仲泊 聡（理化学研究所・網膜再生医療研究開発プロジェクト研究員）

『ヘルペスウイルスによる網膜剥離に対する硝子体手術の最新情報』

山川 良治（久留米大学医学部眼科学講座 主任教授）

2. 第 54 回京都眼科フォーラム

テーマ：診療のクオリティが上がる Q&A

日 時：平成 30 年 7 月 7 日（土）

『OCT 緑内障診断』

内藤 知子（岡山大学眼科学教室 講師）

『外転神経麻痺のみかた』

中馬 秀樹（宮崎大学医学部感覚運動医学講座眼科学分野 准教授）

『Patient based medicine 角膜編』

宮田 和典（医療法人明和会宮田眼科病院 院長）

『角膜ヘルペス』

下村 嘉一（近畿大学 名誉教授）

（3）新・眼科診療アップデートセミナー in Kyoto（下記の企業との共催事業として開催）

平成 30 年 3 月 10 日（土）

開会のあいさつ 木下 茂（京都府立医大）

黄斑疾患と OCT—最近の症例から 古泉 英貴（琉球大）

抗 VEGF 薬の使い方 辻川 明孝（京大）

オキュラーサーフェイスの稀な疾患の症例検討 外園 千恵（京都府立医大）

眼科における臓器・組織移植 木下 茂（京都府立医大）

近視進行予防の考え方 不二門 尚（大阪大）

多焦点眼内レンズケーススタディー 根岸 一乃（慶應義塾大）

糖尿病網膜症の疫学的考察 山下 英俊（山形大）

緑内障眼底読影のミニマムエッセンス 大鳥 安正（大阪医療センター）

新たな視点—視神経炎 vs Leber 遺伝性視神経症— 中尾 雄三（近畿大）

一日目のまとめ 木下 茂（京都府立医大）

平成 30 年 3 月 11 日（日）

二日目のあいさつ 大橋 裕一（愛媛大）

コンタクトレンズ診療アップデート 前田 直之（湖崎眼科）

上皮型ヘルペスとその鑑別診断 大橋 裕一（愛媛大）

オキュラーサーフェス治療のアップデート 西田 幸二（大阪大）

新緑内障診療ガイドライン 谷原 秀信（熊本大）

緑内障視野進行と点眼アドヒアランス 中野 匡（慈恵医大）

緑内障手術 術式の選択と MIGS の位置 杉山 和久（金沢大）

難治性ぶどう膜炎の症例検討 大黒 伸行（JCHO 大阪病院）

眼炎症疾患の捉え方 園田 康平（九州大）

こんなに多い麻痺性斜視—見逃さないコツ— 三村 治（兵庫医大）

医療制度改革の大きな節目 加藤 浩晃（デジタルハリウッド大）

閉会のあいさつ 大橋 裕一（愛媛大）

（共催：大塚製薬株式会社、参天製薬株式会社、ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社ビジョンケアカンパニー、千寿製薬株式会社、株式会社ニデック、日本アルコン株式会社、バイエル薬品株式会社、興和株式会社・興和創薬株式会社、ファイザー株式会社、HOYA 株式会社、ボシュロム・ジャパン株式会社）

(4) 視覚再生フロンティア研究発表会

1. 第30回 平成30年6月2日(土) ウェスティン都ホテル京都

基礎医学校舎第一講義室にて京都府立医科大学眼科教職員の発表を中心とした視覚再生フロンティアが開催された。先進的な内容の発表とそれに引き続く議論なされた。チームとしての研究の方向性が確認され有意義な会であった。

2. 第31回 平成30年12月17日(土) ウェスティン都ホテル京都

基礎医学舎第三会議室にて京都府立医科大学眼科大学院の発表を中心とした視覚再生フロンティアが開催された。大学院としての方向性を考える上で重要な議論がなされ有意義な会であった。

(5) YOBC

○第23回 YOBC

日時:2018年4月19日(木) 大阪国際会議場 12階 第6会場

参加者:76名

特別講演:西田 幸二(大阪大学 教授)

タイトル:Zero to One の奨め

今回で23回目となるYOBCでは西田幸二先生にご講演いただいた。これまでにTranslational researchを行ってきた、西田先生の考えを拝聴できた。白内障手術、硝子体手術、角膜パーツ移植等、さまざまなブレイクするが医療分野において起こってきた。こういった技術開発にはzeroをoneにする開発者がいた。このzero to oneはone to tenを比べ物にならないほど困難なことで、そのオリジナリティをもつ技術開発がいかに関後の医療の進歩に重要であるかをさまざまな例をだしながら紹介していただいた。また、西田先生の現在おこなっているiPS技術の開発も、すべては臨床上で問題点をなんとかしたいという、臨床医としての目線からうまれてきたもので、改めてclinician scientistの重要性を感じた。本研究会を通じで、西田先生の研究についての思いを聞く事ができ、明日からの臨床研究へのモチベーションをいただき、実りある研究会となった。

○第24回 YOBC

日時:2018年10月11日(木) 東京国際フォーラム 4階 G409

参加者:80名

特別講演:栗原 俊英(慶應大学 特任准教授)

タイトル:生体と人生のストレス応答

今回で24回目となるYOBCでは栗原俊英先生にご講演いただいた。海外留学先で、急遽ラボが解散し、そこから違うラボに移った苦労話から始まり、その逆境の中で、いかにして自分で道を切り開いていくかについての考えについてお聞きした。栗原先生は血管新生の中でもHIF-1を介したメカニズムについてノックアウトマウスを用いて解析を行ってきた。作製したノックアウトマウスが予想もしない結果になってしまったことをヒントに、なぜそうなったかを突き詰めるこ

とで、新しい発見ができたという成功体験をお話いただき、その状況において、いかに物事を考えるかが、次のブレークスルーを生むことに重要であることを感じた。また、そこから日本に戻ってきて、どのような研究テーマをするかについて、常に、臨床医としての目線から考え、改めて clinician scientist の重要性を感じた。本研究会を通じで、栗原先生の研究についての思いを聞く事ができ、明日からの臨床研究へのモチベーションをいただき、実りある研究会となった。

(6) iseminar (アイセミナー)

1. 第12回 iseminar フォーラム

平成 30 年 3 月 31 日 (土)

「大規模ゲノム研究の最前線」秋山 雅人 (理化学研究所)

「天敵が治す眼細菌感染症」福田 憲 (高知大学)

「既存の地域医療連携システムを利用した、新しい眼科情報連携の検討」石川 慎一郎 (佐賀大学)

「緑内障と線維化」井上 俊洋 (熊本大学)

2. 第13回 iseminar フォーラム

平成 30 年 9 月 1 日 (土)

「児童から高齢者まで！包括的病的近視診療への挑戦」横井 多恵 (東京医科歯科大学)

「血管再生は可能？血管における幹細胞研究最前線」若林 卓 (大阪大学)

「Closed & Non-pressurized Cataract Surgery (非虚脱・非加圧白内障手術)」増田 洋一郎 (慈恵医科大学)

「ゲノム解析と機械学習で切り分けるパキコロイド系疾患と加齢黄斑変性」三宅 正裕 (京都大学)

3. 次世代医師が夢見る眼科医療の未来 第4弾

平成 30 年 10 月 12 日 (金) 於 第72回日本臨床眼科学会 モーニングセミナー

「藻からヒトへ：進化を超えた網膜治療への挑戦」栗原 俊英 (慶應義塾大学)

「実学としてのデータサイエンス」三宅 正裕 (京都大学)

「眼科地域連携、半端ないって！」石川 慎一郎 (佐賀大学)

「血管再生は可能？血管研究最前線」若林 卓 (大阪大学)

「ビッグデータと切り拓くこれからの医療」秋山 雅人 (九州大学)

(協賛企業 エイエムオー・ジャパン株式会社、大塚製薬株式会社、参天製薬株式会社、千寿製薬株式会社)

(7) 情報提供など

- ・オンラインサービス「iseminar」の会員に定期講演会や医学情報を提供した。
- ・オンラインサービス「iseminar」にて動画コンテンツ合計 51 本を公開、会員に向け情報提供を行った。(手術動画 50 本、セミナー動画 1 本)
- ・ホームページを用いて本研究会の活動内容や活動成果を公表した。